

現行の頁	現行（平成31年3月）	一部改訂（令和8年3月）
表紙	<p data-bbox="472 459 1075 635">港湾の堤外地等における高潮リスク 低減方策ガイドライン （改訂版）</p> <p data-bbox="658 1043 866 1075">平成31年3月</p> <p data-bbox="613 1166 913 1198">国土交通省 港湾局</p>	<p data-bbox="1323 459 1926 635">港湾の堤外地等における高潮リスク 低減方策ガイドライン （改訂版）</p> <p data-bbox="1462 1043 1762 1075">令和8年3月一部改訂</p> <p data-bbox="1462 1166 1762 1198">国土交通省 港湾局</p>

港湾の堤外地等における高潮リスク低減方策ガイドライン 新旧対照表

現行の頁	現行（平成31年3月）	一部改訂（令和8年3月）
改訂にあたって	<p>改訂にあたって</p> <p>港湾の堤外地等において高潮による浸水被害が発生すると、我が国の港湾物流ネットワークや立地企業の生産活動が大きく停滞する可能性があることから、平成30年3月に「港湾の堤外地等における高潮リスク低減方策ガイドライン」を策定し、港湾の堤外地等における高潮対策を推進することとしたところである。</p> <p>しかしながら、平成30年9月に大阪湾を直撃した台風第21号に伴う高潮・高波により、大阪港や神戸港等において浸水被害が発生した。浸水等により空コンテナが航路・泊地に流出し、啓開作業により安全が確認されるまで、船舶の航行が数日間制限され、フェリーの抜港等、港湾利用に大きな支障を来した。また、神戸港六甲アイランドのコンテナターミナルでは、浸水によりガントリークレーン2基の機能が停止した。他のターミナルを利用していた航路は同年11月に全て復帰したものの、すべてのガントリークレーンが最終的に稼働再開したのは浸水被害発生4ヶ月後と長期間の影響が発生した。</p> <p>このように台風第21号により高潮被害の港湾利用への影響が長期間に渡り、経済的な影響も大きいことが明らかとなった。また、暴風によるコンテナの倒壊対策や事前防災行動の重要性が改めて認識されるとともに、コンテナターミナル内のトレーラ等の被害によるターミナル早期再開への支障等、今回の被害により新たな課題が浮き彫りとなった。さらに、全国の港湾における高潮対策を推進する観点から、対策を実施する際の技術的な課題を早期に解決する必要性が生じた。</p> <p>このため、「港湾における高潮リスク低減方策検討委員会」（委員長：岡安章夫 東京海洋大学 学術研究院 教授）を平成30年10月から5回にわたり開催し、人命の確保を前提としたうえで、港湾機能の維持・早期再開の観点から検討を行い、検討結果をガイドラインに反映したものである。</p> <p style="text-align: right;">平成31年3月 国土交通省港湾局</p>	<p>改訂にあたって</p> <p>港湾の堤外地等において高潮による浸水被害が発生すると、我が国の港湾物流ネットワークや立地企業の生産活動が大きく停滞する可能性があることから、平成30年3月に「港湾の堤外地等における高潮リスク低減方策ガイドライン」を策定し、港湾の堤外地等における高潮対策を推進することとしたところである。</p> <p>しかしながら、平成30年9月に大阪湾を直撃した台風第21号に伴う高潮・高波により、大阪港や神戸港等において浸水被害が発生した。浸水等により空コンテナが航路・泊地に流出し、啓開作業により安全が確認されるまで、船舶の航行が数日間制限され、フェリーの抜港等、港湾利用に大きな支障を来した。また、神戸港六甲アイランドのコンテナターミナルでは、浸水によりガントリークレーン2基の機能が停止した。他のターミナルを利用していた航路は同年11月に全て復帰したものの、すべてのガントリークレーンが最終的に稼働再開したのは浸水被害発生4ヶ月後と長期間の影響が発生した。</p> <p>このように台風第21号により高潮被害の港湾利用への影響が長期間に渡り、経済的な影響も大きいことが明らかとなった。また、暴風によるコンテナの倒壊対策や事前防災行動の重要性が改めて認識されるとともに、コンテナターミナル内のトレーラ等の被害によるターミナル早期再開への支障等、今回の被害により新たな課題が浮き彫りとなった。さらに、全国の港湾における高潮対策を推進する観点から、対策を実施する際の技術的な課題を早期に解決する必要性が生じた。</p> <p>このため、「港湾における高潮リスク低減方策検討委員会」（委員長：岡安章夫 東京海洋大学 学術研究院 教授）を平成30年10月から5回にわたり開催し、人命の確保を前提としたうえで、港湾機能の維持・早期再開の観点から検討を行い、検討結果を平成31年3月に本ガイドラインに反映した。</p> <p>また、令和8年の出水期から開始される新たな防災気象情報の運用に伴い、高潮に関する情報の名称や発表基準等が大幅に変更され、防災行動の開始判断に活用される情報体系も変更となることから、最新の防災気象情報の内容を本ガイドラインに反映した。</p> <p style="text-align: right;">令和8年3月 国土交通省港湾局</p>

現行の頁	現行（平成31年3月）	一部改訂（令和8年3月）
3. 4	<p>3. 4 段階的な防災行動計画の考え方</p> <p>高潮災害の特徴を理解した上で、高潮、高波、暴風の状況に応じた防災行動を検討する必要がある。</p> <p>高潮への対応においては、各種の防災情報を活用して対策等を開始することを基本に適切な段階（フェーズ）を想定し、それに応じた具体的な防災行動の内容や作業時間等を考慮して実施するタイミングを整理するとともに、港湾の堤外地等において高潮に対する避難を含めた対策を実施する上で最も考慮すべき事項は風及び潮位であることから、「危険度を色分けした時系列」（参考資料 P46 参照）における、強風注意報や高潮注意報の「注意報級や警報級の時間帯」や「予測潮位」を活用することにより、更に早い段階での防災行動の準備が可能となる。水際線付近に長い避難経路が位置している場合等では、波浪の影響を受けることから、必要に応じ波浪警報の「警報級の時間帯」や「予測波高」も考慮する必要がある。なお、高潮と暴風で対応する対策が異なる場合にも留意して、防災行動開始のトリガーを設定する必要がある。</p> <p>また、多くの台風においては高潮警報より先に暴風警報が発表されることや台風の進路及び強度の予想が難しい場合、より切迫した状況で高潮警報を発表する可能性がある。このような場合は高潮警報発表時には既に暴風が吹き、屋外での作業や移動などは命の危険を伴う恐れがあるため、高潮警報を待つことなく、暴風警報を活用し、暴風が吹き始めるより前に防災行動を完了しておくことが重要である。</p> <p>さらに、台風のコース変化や発達などにより、高潮の発生のタイミングや規模が当初の想定から変わった場合には行動を早めるなど臨機に防災行動を見直すことが重要である。</p> <p>特に、高潮及び暴風の特別警報については、5, 0 0 0人以上の死者・行方不明者を出した「伊勢湾台風」等、数十年に一度の強度の台風等の来襲時に気象庁から発表されることから、特別警報の可能性について言及された場合には、例えば各対策の繰り上げ等の対応をフェーズ別高潮・暴風対応計画に記載しておくことと良い。</p> <p>また、台風時等に港長から船舶に対して避難勧告等が発出される。このため、荷役の停止等、船舶の退避行動と連動する防災行動開始のトリガーについては、港長が発出する勧告等を用いることも有効である。</p> <p>なお、高潮等への段階的な対応をタイムラインの考え方を取り入れて、いくつかのフェーズに分け、それに応じた防災行動を整理することを基本とする。また、現場の状況把握の観点から台風最接近時から台風通過後までの行動も整理しておくことと良い。以下、3つのフェーズに分けた例を示し、フェーズ毎の防災行動のイメージを図 3.1 に示すとともに、参考資料 P61 にフェーズ別高潮・暴風対応計画のひな形を掲載している。ひな形を参考に、警報級の現象が予想される台風等の接近に際し、各港湾の状況に応じて想定される標準的な防災行動を定めた対応計画を策定する必要がある。</p>	<p>3. 4 段階的な防災行動計画の考え方</p> <p>高潮災害の特徴を理解した上で、高潮、高波、暴風の状況に応じた防災行動を検討する必要がある。</p> <p>高潮への対応においては、各種の防災情報を活用して対策等を開始することを基本に適切な段階（フェーズ）を想定し、それに応じた具体的な防災行動の内容や作業時間等を考慮して実施するタイミングを整理するとともに、港湾の堤外地等において高潮に対する避難を含めた対策を実施する上で最も考慮すべき事項は風及び潮位であることから、令和8年度出水期より、「時系列情報（明日までの警報等の見通し）」（参考資料 P49 参照）における、暴風や高潮の「注意報又は警報基準を超えると予想される時間帯」（高潮については注意報又は警報発表の可能性のある時間帯）や「予測潮位」を活用することにより、更に早い段階での防災行動の準備が可能となる。水際線付近に長い避難経路が位置している場合等では、波浪の影響を受けることから、必要に応じ波浪警報の「警報基準を超えると予想される時間帯」や「予測波高」も考慮する必要がある。なお、高潮と暴風で対応する対策が異なる場合にも留意して、防災行動開始のトリガーを設定する必要がある。</p> <p>また、レベル3高潮警報は暴風を考慮したリードタイムで発表されるが、台風の進路及び強度の予想が難しい場合、より切迫した状況でレベル3高潮警報を発表する可能性がある。このような場合はレベル3高潮警報発表時には既に暴風が吹き、屋外での作業や移動などは命の危険を伴う恐れがあるため、レベル3高潮警報を待つことなく、暴風警報を活用し、暴風が吹き始めるより前に防災行動を完了しておくことが重要である。</p> <p>さらに、台風のコース変化や発達などにより、高潮の発生のタイミングや規模が当初の想定から変わった場合には行動を早めるなど臨機に防災行動を見直すことが重要である。</p> <p>特に、暴風特別警報については、5, 0 0 0人以上の死者・行方不明者を出した「伊勢湾台風」等、数十年に一度の強度の台風等の来襲時に気象庁から発表されることから、特別警報の可能性について言及された場合には、例えば各対策の繰り上げ等の対応をフェーズ別高潮・暴風対応計画に記載しておくことと良い。</p> <p>また、台風時等に港長から船舶に対して避難勧告等が発出される。このため、荷役の停止等、船舶の退避行動と連動する防災行動開始のトリガーについては、港長が発出する勧告等を用いることも有効である。</p> <p>なお、高潮等への段階的な対応をタイムラインの考え方を取り入れて、いくつかのフェーズに分け、それに応じた防災行動を整理することを基本とする。また、現場の状況把握の観点から台風最接近時から台風通過後までの行動も整理しておくことと良い。以下、3つのフェーズに分けた例を示し、フェーズ毎の防災行動のイメージを図 3.1 に示すとともに、参考資料 P66 にフェーズ別高潮・暴風対応計画のひな形を掲載している。ひな形を参考に、当該港湾に被害が予想される台風等の接近に際し、各港湾の状況に応じて想定される標準的な防災行動を定めた対応計画を策定する必要がある。</p>

現行の頁	現行（平成31年3月）				一部改訂（令和8年3月）					
			基本的な防災行動				基本的な防災行動			
	防災情報	フェーズ	時間目安	情報収集・体制	対策・関係者対応	防災情報	フェーズ	時間目安	情報収集・体制	対策・関係者対応
	警報級の現象が予想される台風の発生	フェーズ1 準備・実施段階	台風接近の5～1日前	情報収集 災害時の体制準備	事前対策の準備 注意喚起	当該港湾に被害が予想される台風の発生	フェーズ1 準備・実施段階	台風接近の5～1日前	情報収集 災害時の体制準備	事前対策の準備 注意喚起
	強風注意報、高潮注意報 (危険度を色分けした時系列により「注意報級・警報級の時間帯」、「予測潮位」等の確認)	フェーズ2 状況確認段階	台風接近の1日～半日程度前	関係者への情報提供 避難準備、体制確認 夜間に警報級が予想されている場合には 防災行動を繰り上げ	状況確認	気象解説情報、強風注意報 or レベル2 高潮注意報 時系列情報により「注意報級・警報級の時間帯」、「予測潮位」等の確認	フェーズ2 状況確認段階	台風接近の1日～半日程度前	関係者への情報提供 避難準備、体制確認 夜間にフェーズ3への移行が予想されている場合には 防災行動を繰り上げ	状況確認
	暴風警報、高潮警報 or 暴風特別警報、高潮特別警報	フェーズ3 行動完了段階	台風接近の半日～6時間程度前	従業員等の避難	対策完了の確認	気象解説情報、暴風警報 or 暴風特別警報、レベル3 高潮警報 or 暴風警報、レベル4 高潮危険警報 or 暴風特別警報、レベル5 高潮特別警報	フェーズ3 行動完了段階	台風接近の半日～6時間程度前	従業員等の避難	対策完了の確認
		台風接近時 (高潮・暴風発生)		暴風が吹き始めると対策や避難が困難となることから、暴風警報が発表されてから暴風が吹き始めるまでの間（概ね3～6時間以内）に防災行動を完了させる			台風接近時 (高潮・暴風発生)		暴風が吹き始めると対策や避難が困難となることから、暴風警報が発表されてから暴風が吹き始めるまでの間（概ね3～6時間以内）に防災行動を完了させる	
	警報解除・体制解除	台風通過後 (高潮・暴風収束)			モニタリング	警報解除・体制解除	台風通過後 (高潮・暴風収束)			モニタリング
				出動要請、派遣	点検				出動要請、派遣	点検

図 3.1 フェーズ別高潮・暴風対応計画のイメージ

図 3.1 フェーズ別高潮・暴風対応計画のイメージ

- 【フェーズ1】：準備・実施段階（台風最接近の5～1日前）
- 週間天気予報（毎日11時、17時）や定時の天気予報（毎日5時、11時、17時）に合わせて、気象庁から翌日から5日先までの「警報級の可能性」（参考資料 P44 参照）が発表された段階を【フェーズ1】とする。
 - このフェーズで事前対策を準備・実施することを基本とする。
 - 「警報級の可能性」が[高]や[中]の場合には、気象庁から発表される「台風情報」（参考資料 P40～43 参照）や「予告的な府県気象情報」（参考資料 P45 参照）、を随時確認し、防災行動の準備を開始する。なお、「警報級の可能性」については、雨、風、雪、波を対象に発表されているものであり、潮位を対象としていないことから留意が必要である。
 - 注意報と合わせて気象庁から発表される「危険度を色分けした時系列」などを確認し防災行動を開始する。

- 【フェーズ1】：準備・実施段階（台風最接近の5～1日前）
- 週間天気予報（毎日11時、17時）や定時の天気予報（毎日5時、11時、17時）に合わせて、気象庁から翌日～5日先までの「早期注意情報（警報級の可能性）」（参考資料 P47 参照）が発表された段階、若しくは台風発生時又は台風が日本に影響を及ぼすおそれがあるときに発表される「府県気象解説情報（台風第〇号）」が発表された段階を【フェーズ1】とする。
 - このフェーズで事前対策を準備・実施することを基本とする。
 - 「早期注意情報（警報級の可能性）」において高潮が[高]や[中]の場合及び「府県気象解説情報（台風第〇号）」が発表された場合には、これらの情報を随時確認し、防災行動の準備を開始する。
 - 警報・注意報に先立ち、気象の見通しについて市町村等の単位で気象庁から発表される「時系列情報（明日までの警報等の見通し）」（毎日5時、11時、17時、23時発表。P49 参照）などを確認し防災行動を開始する。
なお、「時系列情報」は大雨・土砂災害・風・波・高潮など幅広い気象要素を対象としており、警報・注意報の発表に関わらず全要素の見通しが毎日発表され、気象庁ホー

港湾の堤外地等における高潮リスク低減方策ガイドライン 新旧対照表

現行の頁	現行（平成31年3月）	一部改訂（令和8年3月）
	<p>特に、伊勢湾台風級以上の台風が接近する場合には、防災行動に要する時間が長くなる。「警報級の可能性」が〔高〕の場合には、情報収集や体制の確認等の準備を前倒し、防災行動に要する時間を踏まえ、警報級の現象が予想される時間帯よりも前に、全ての防災行動を完了させる必要がある。</p> <p>【フェーズ2】：状況確認段階（台風最接近の1日～半日程度前）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般に、高潮注意報に先行して強風注意報が発表されることから、強風注意報が発表された段階を【フェーズ2】とする。 このフェーズで対策の実施状況を確認することを基本とする。 新たな注意報が発表される場合には、「危険度を色分けした時系列」による情報も更新されることから、予測されている風速・潮位や発生時刻を確認し、更新された情報を元に、必要に応じ、防災行動を更に繰り上げて実施する。 夜間に警報級の現象が予想されている場合には、防災行動を繰り上げて実施する。 港長の発出する勧告等も、防災行動の参考とする。 予測される潮位の規模に応じて、防災行動を見直す。 <p>【フェーズ3】：行動完了段階（台風最接近の半日～6時間程度前）</p> <ul style="list-style-type: none"> 暴風に関する警報が発表された段階を【フェーズ3】とする。 このフェーズで防災行動の完了を確認することを基本とする。 暴風が吹き始めると対策や避難が困難になることから、対応を行う主体は最新の警報・注意報の「危険度を色分けした時系列」、「高潮や暴風が予想される時間」や「予測潮位」を確認し、暴風等の警報級の現象が予想される時間帯（警報の発表から概ね3～6時間以内）よりも前に、速やかに全ての防災行動が完了したことを確認できるよう、早めの対応を行うこととする。 港長の発出する勧告等も、防災行動の参考とする。 予測される潮位の規模に応じて、防災行動を見直す。 <p>堤外地から堤内地への避難について、特に背後に広大なゼロメートル地帯が存在する堤外地においては、予想される高潮等の規模が大きくなると堤内地の浸水により避難する距離が長く</p>	<p>ムページで常時閲覧することができる。また、高潮や波浪については、潮位や波高の予測値が定量的に示されることとなるため、高潮・波浪の注意報や警報の発表が見込まれない場合においても、潮位・波浪等について情報収集することが可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に、伊勢湾台風級以上の台風が接近する場合には、防災行動に要する時間が長くなる。「早期注意情報（警報級の可能性）」が〔高〕の場合には、情報収集や体制の確認等の準備を前倒しし、防災行動に要する時間を踏まえ、警報級の現象が予想される時間帯よりも前に、全ての防災行動を完了させる必要がある。 <p>【フェーズ2】：状況確認段階（台風最接近の1日～半日程度前）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般に、レベル2高潮注意報に先行して強風注意報が発表されることから、強風注意報が発表された段階、若しくは「府県気象解説情報（台風第〇号）」で被害が生じる恐れのある時間帯から1日～半日程度前を【フェーズ2】とする。 このフェーズで対策の実施状況を確認することを基本とする。（このフェーズで対策が実施済みであることを基本とする） 6時間毎に発表される「時系列情報」は当初の想定から見通しが大きく変わった場合は臨時で更新されることもあるため、予測されている風速・潮位や発生時刻を確認し、更新された情報を元に、必要に応じ、防災行動を更に繰り上げて実施する。 夜間にフェーズ3への移行が予想されている場合には、防災行動を繰り上げて実施する。 港長の発出する勧告等も、防災行動の参考とする。 予測される潮位の規模に応じて、防災行動を見直す。 <p>【フェーズ3】：行動完了段階（台風最接近の半日～6時間程度前）</p> <ul style="list-style-type: none"> 暴風に関する警報が発表された段階、若しくは「府県気象解説情報（台風第〇号）」で被害が生じる恐れのある時間帯から半日～6時間程度前を【フェーズ3】とする。 このフェーズで防災行動の完了を確認することを基本とする。 暴風が吹き始めると対策や避難が困難になることから、対応を行う主体は最新の「府県気象解説情報（台風第〇号）」、「時系列情報」、「高潮や暴風が予想される時間」や「予測潮位」を確認し、暴風等の警報級の現象が予想される時間帯（警報の発表から概ね3～6時間以内）よりも前に、速やかに全ての防災行動が完了したことを確認できるよう、早めの対応を行うこととする。 港長の発出する勧告等も、防災行動の参考とする。 予測される潮位の規模に応じて、防災行動を見直す。 <p>堤外地から堤内地への避難について、特に背後に広大なゼロメートル地帯が存在する堤外地においては、予想される高潮等の規模が大きくなると堤内地の浸水により避難する距離が長くなることから、より早いフェーズから避難を開始する必要がある。</p>

港湾の堤外地等における高潮リスク低減方策ガイドライン 新旧対照表

現行の頁	現行（平成31年3月）	一部改訂（令和8年3月）
	<p>なることから、より早いフェーズから避難を開始する必要がある。</p> <p>高潮対応を行う各主体は、それぞれのフェーズにおいて必要な防災行動について検討・準備する。ただし、3つのフェーズの間隔は災害毎に異なることから、各主体はどのような防災行動にどの程度の時間を要するかをあらかじめ把握しておく必要がある。また、高潮注意報・警報の発表基準は、各地の気象台が都道府県等の意見を聞いた上で、堤外地を考慮するかどうかを決めており、堤外地の地盤高と基準の関係を確認する必要がある。</p> <p>フェーズ別高潮・暴風対応計画のイメージを平成30年台風第21号に適用させた場合（図3.2）、神戸市の警報級の可能性が発表されたのは浸水の4日前であり、神戸港では防災行動を実施する十分な時間が確保される。一方、広島市のように台風最接近の1日前に警報級の可能性が発表されるというケースもあり、防災行動の実施主体は、防災情報のみにより各フェーズを開始するのではなく、防災行動に必要な時間を考慮し、気象状況等により柔軟に行動を開始する必要がある。</p>	<p>高潮対応を行う各主体は、それぞれのフェーズにおいて必要な防災行動について検討・準備する。ただし、3つのフェーズの間隔は災害毎に異なることから、各主体はどのような防災行動にどの程度の時間を要するかをあらかじめ把握しておく必要がある。また、レベル5高潮特別警報・レベル4高潮危険警報の発表基準は、各地の気象台が市町村等の意見を聞いた上で、堤外地を考慮するかどうかを決めており、堤外地の地盤高と発表基準の関係を確認する必要がある。（レベル2高潮注意報・レベル3高潮警報・レベル4高潮危険警報はそれぞれレベル4高潮危険警報の発表基準とする潮位に達すると予想される時間帯の一定時間の前までに発表される）。</p> <p>フェーズ別高潮・暴風対応計画のイメージを平成30年台風第21号に適用させた場合（図3.2）、神戸市の警報級の可能性が発表されたのは浸水の4日前であり、神戸港では防災行動を実施する十分な時間が確保される。一方、広島市のように台風最接近の1日前に警報級の可能性が発表されるというケースもあり、防災行動の実施主体は、防災情報のみにより各フェーズを開始するのではなく、防災行動に必要な時間を考慮し、気象状況等により柔軟に行動を開始する必要がある。</p>
	<p>図3.2 台風進路とフェーズの関係（平成30年台風第21号の事例）</p>	<p>図3.2 台風進路とフェーズの関係（平成30年台風第21号の事例）</p>
		<p>（参考：気象解説情報）</p> <p>潮位上昇の予想については、高潮特別警報・危険警報の発表基準に達する場合は高潮特別警報・危険警報・警報・注意報として発表するほか、その基準に達しない場合等は次の気象解説情報に含めることがあり、これらを活用することも有効である。</p> <p>また、気象解説情報については一般に対して周知する法定の義務や努力義務が課されておらず、この情報をどのように周知するかどうかは各機関に委ねられている。一方で気象解説</p>

現行の頁	現行（平成31年3月）	一部改訂（令和8年3月）
		<p>情報は受信した側が適切に取得・確認することが前提となるため、必要な情報を確実に入手できるよう、関係機関においては平時から連絡体制を整備しておくことが重要である。</p> <p>なお、気象庁から都道府県へ送付される気象解説情報については電文形式であるため、都道府県においては関係市町村へ自動通知等の処理を行うことが可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 府県気象解説情報（台風第〇号）：台風が発生したとき又は日本に影響を及ぼすおそれがあるか、既に影響を及ぼしているとき、台風の今後の見通しや防災上の留意点（潮位上昇による浸水・冠水を含む。）等について、府県毎に発表する情報。 ・ 府県気象解説情報（〇〇、△△：現象名）：低気圧その他の気象現象による大雨、強風、高波等が予想されるとき、警報や注意報に先立ち、又はそれらを補完して防災上の留意点について府県毎に発表する情報で、潮位上昇を含む場合がある。ただし、台風に関し、上記の府県気象解説情報（台風第〇号）に潮位上昇が含まれる場合は、これら以外に潮位上昇を含む府県気象解説情報は発表しない。 ・ 府県気象解説情報（潮位）：大潮、副振動、異常潮位等による潮位上昇の発生のおそれがあるとき、又は発生しているとき、その見通し、留意点等について府県毎に発表する情報。上記の府県気象解説情報（台風第〇号）や府県気象解説情報（〇〇、△△：現象名）に潮位上昇が含まれる場合は、府県気象解説情報（潮位）は発表しない。
3. 5	<p>3. 5 円滑な防災行動のための情報共有体制</p> <p>図 3.3 情報共有体制のイメージ</p>	<p>3. 5 円滑な防災行動のための情報共有体制</p> <p>図 3.3 情報共有体制のイメージ</p>

現行の頁	現行（平成31年3月）	一部改訂（令和8年〇月）
3. 6	<p>3. 6 従業員等の避難</p> <p>台風が接近している場合、従業員等については早期帰宅・出社取りやめとすることを基本とする。ただし、やむを得ず企業内に留まらざるを得ない従業員等については、その数を必要最小限とし、安全な場所を企業の責任において確保する必要がある。</p> <p>台風が接近している場合、従業員等については早期帰宅・出社取りやめとすることがあり、早期帰宅等を行うタイミングについて、フェーズ別高潮対応・暴風計画に位置付けると良い。なお、避難の考え方については、「避難勧告等に関するガイドライン」（平成31年3月 内閣府）が参考となる。</p> <p>ただし、やむを得ず企業内に留まらざるを得ない従業員等については、その数を必要最小限とするとともに、漂流物や火災に対しても安全で、食糧等を備えた場所を企業の責任において確保する必要がある。なお、自社で安全な場所が確保できない企業については、他の企業と事前に調整を行い安全な避難場所を確保しておくこととする。</p>	<p>3. 6 従業員等の避難</p> <p>台風が接近している場合、従業員等については早期帰宅・出社取りやめとすることを基本とする。ただし、やむを得ず企業内に留まらざるを得ない従業員等については、その数を必要最小限とし、安全な場所を企業の責任において確保する必要がある。</p> <p>台風が接近している場合、従業員等については早期帰宅・出社取りやめとすることがあり、早期帰宅等を行うタイミングについて、フェーズ別高潮対応・暴風計画に位置付けると良い。なお、避難の考え方については、「避難情報に関するガイドライン」（令和8年3月 内閣府）が参考となる。</p> <p>ただし、やむを得ず企業内に留まらざるを得ない従業員等については、その数を必要最小限とするとともに、漂流物や火災に対しても安全で、食糧等を備えた場所を企業の責任において確保する必要がある。なお、自社で安全な場所が確保できない企業については、他の企業と事前に調整を行い安全な避難場所を確保しておくこととする。</p>
6. 1	<p>6. 1 被害の情報共有のあり方</p> <p>被害情報の共有にあたっては、堤内地とのアクセス路、特に橋梁や海底トンネルの使用の可否等に関する情報の入手や関係者による浸水想定区域図の共有等が重要である。</p> <p>港湾の堤外地は、海岸保全施設等により堤内地と分断されており、また、橋梁や海底トンネルのみで接続される箇所もあることから、災害時に孤立しやすい環境にある。「避難勧告等に関するガイドライン」（平成31年3月 内閣府）においては、市町村長から発令される避難勧告等の基本的な考え方として、「避難勧告等は一定の範囲に対して発令せざるを得ない面があることから、対象区域の個々の居住者等が、どのような避難行動が必要かあらかじめ理解する必要がある」とされており、浸水被害の危険性が高く、高波や暴風も顕著な堤外地においては、状況に応じて自らの判断で避難を開始することは極めて重要である。</p> <p>しかし、堤内地とのアクセス路、特に橋梁や海底トンネルの使用の可否等に関する情報を得るためのカメラ等によるモニタリングや関係者による浸水想定区域図の共有といった取り組みが、必ずしも十分ではない。このため今後、地方整備局等で、情報提供体制の構築に向けた検討を行うとともに、関係者に講習会・説明会等に取り組むものとする。</p>	<p>6. 1 被害の情報共有のあり方</p> <p>被害情報の共有にあたっては、堤内地とのアクセス路、特に橋梁や海底トンネルの使用の可否等に関する情報の入手や関係者による浸水想定区域図の共有等が重要である。</p> <p>港湾の堤外地は、海岸保全施設等により堤内地と分断されており、また、橋梁や海底トンネルのみで接続される箇所もあることから、災害時に孤立しやすい環境にある。「避難情報に関するガイドライン」（令和8年3月 内閣府）においては、「居住者等が持つべき避難に対する基本姿勢」として、「自然災害に対して行政に依存し過ぎることなく、「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、自らの判断で主体的な避難行動をとることが必要である」とされており、浸水被害の危険性が高く、高波や暴風も顕著な堤外地においては、状況に応じて自らの判断で避難を開始することは極めて重要である。</p> <p>しかし、堤内地とのアクセス路、特に橋梁や海底トンネルの使用の可否等に関する情報を得るためのカメラ等によるモニタリングや関係者による浸水想定区域図の共有といった取り組みが、必ずしも十分ではない。このため今後、地方整備局等で、情報提供体制の構築に向けた検討を行うとともに、関係者に講習会・説明会等に取り組むものとする。</p>

現行の頁

現行（平成31年3月）

参考資料
1.3

1.3 台風に関する情報



図 1.3.1 気象庁 HP による台風情報

(出典：気象庁提供資料及び気象庁HP)

① 台風の実況と予報

気象庁は、台風の実況と12時間先、24時間先の予報を3時間ごとに発表し、さらに5日（120時間）先までの24時間刻みの台風の予報を6時間ごとに発表している。台風の動きが遅い場合には、12時間先の予報を省略することがある。

台風の実況の内容は、台風の中心位置、進行方向と速度、中心気圧、最大風速（10分間平均）、最大瞬間風速、暴風域、強風域である。5日先までの台風の予報の内容は、5日（120時間）先までの各予報時刻の台風の中心位置（予報円の中心と半径）、進行方向と速度、中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域である。

なお、日本列島に大きな影響を及ぼす台風が接近している時には、台風の位置や強さなどの実況と1時間後の推定値を1時間ごとに発表するとともに、24時間先までの3時間刻みの予報を3時間ごとに発表している。

一部改訂（令和8年〇月）

1.3 台風に関する情報

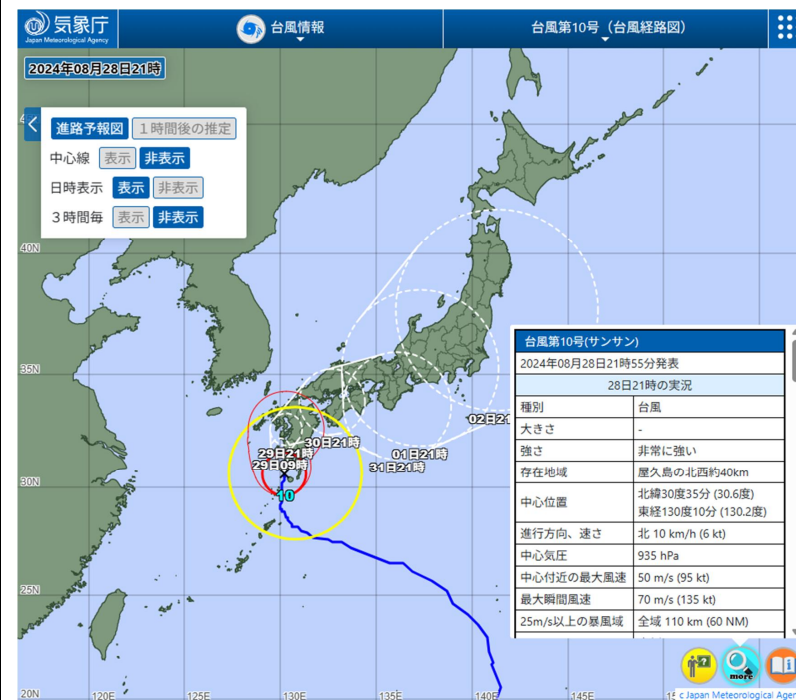


図 1.3.1 気象庁 HP による台風情報

(出典：気象庁提供資料及び気象庁HP)

① 台風の実況と予報

気象庁は、台風の実況と12時間先、24時間先の予報を3時間ごとに発表し、さらに5日（120時間）先までの24時間刻みの台風の予報を6時間ごとに発表している。台風の動きが遅い場合には、12時間先の予報を省略することがある。

台風の実況の内容は、台風の中心位置、進行方向と速度、中心気圧、最大風速（10分間平均）、最大瞬間風速、暴風域、強風域である。5日先までの台風の予報の内容は、5日（120時間）先までの各予報時刻の台風の中心位置（予報円の中心と半径）、進行方向と速度、中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域である。

なお、日本列島に大きな影響を及ぼす台風が接近している時には、台風の位置や強さなどの実況と1時間後の推定値を1時間ごとに発表するとともに、24時間先までの3時間刻みの予報を3時間ごとに発表している。

現行の頁	現行（平成31年3月）	一部改訂（令和8年〇月）
	<div data-bbox="358 215 1164 813" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <h3 style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">台風に関する情報（台風に関する気象情報）</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="369 263 616 790" style="width: 45%;"> <p>全国が対象</p> <p>平成26年 台風第8号に関する情報 第2号 平成26年7月7日10時45分 気象庁予報部発表</p> <p>【発出】 大型で非常に強い台風第8号は、8日は猛烈な勢力となって沖縄地方にかなり接近する見込みです。沖縄地方では記録的な暴風や高波となるおそれがあり、特別警報を発表する可能性があります。暴風や高波、高潮、大雨に厳重に警戒してください。</p> <p>【本文】 【台風の現況】 大型で非常に強い台風第8号は、7日9時には沖縄の南にあって、1時間におよそ20キロの速さで北西へ進んでいます。中心の気圧は938ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は50メートル、最大瞬間風速は70メートル、中心から半径200キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。</p> <p>【今後の台風の予想】 大型で非常に強い台風第8号は、更に発達しながら北西に進み、8日は猛烈な勢力となって沖縄地方にかなり接近する見込みです。9日にかけて東シナ海を北上し、10日には九州に接近するおそれがあります。</p> <p>【防災事項】 ＜暴風・高波＞ 沖縄地方と奄美地方では風が次期に強まり、7日夜には沖縄地方で非常に強い雨が吹き、8日は猛烈な暴風や高波となるおそれがあります。奄美地方でも8日は非常に強い雨が吹くでしょう。 台風からのうねりにより、沖縄地方の海上は大しげとなる見込みです。奄美地方でも7日夜から大しげとなり、8日は沖縄地方と奄美地方の海上は猛烈にしける見込みです。九州南部でも8日は大しげとなる見込みです。</p> <p>8日にかけて予想される最大風速（最大瞬間風速）は、 沖縄地方 55メートル（75メートル） 奄美地方 28メートル（40メートル） 九州南部 17メートル（30メートル） の見込みです。</p> <p>沖縄地方には、暴風特別警報と波浪特別警報が発せられる可能性があります。暴風や高波に厳重に警戒してください。</p> <p>＜高潮＞ 沖縄地方では、台風が接近に伴い8日は潮位がかなり高くなる見込みで、高潮特別警報が発せられる可能性があります。海岸や河口付近の低地では高潮による浸水や冠水に厳重に警戒してください。</p> <p>【補足事項】 今後の台風情報や、地元気象台が発する警報、注意報、気象情報に留意し、安全を確保するための身の処方を注意してください。次の「台風第8号に関する情報（総合情報）」は7日17時頃に発表する予定です。</p> </div> <div data-bbox="627 263 1041 790" style="width: 45%;"> <p>各地域が対象</p> <p>平成26年台風第8号に関する沖縄地方気象情報 第8号 平成26年7月7日11時01分 沖縄気象台発表</p> <p>【発出】 大型で非常に強い台風第8号は、8日は猛烈な勢力となって沖縄地方にかなり接近する見込みです。沖縄地方では記録的な暴風や高波となるおそれがあり、特別警報を発表する可能性があります。暴風や高波、高潮、大雨に厳重に警戒してください。</p> <p>【本文】 【防犯事項】 ＜暴風・高波＞ 奄美地方や大東島地方では風が強吹いており、沖縄本島地方や八重山地方では7日夜から風が強まるでしょう。先島諸島では7日夜から、沖縄本島地方では8日明け方から次第に強風が吹く見込みです。海上、海上でも非常に強い風が吹く見込みです。また、8日はさらに強風が吹く見込みで、沖縄本島地方や先島諸島では猛烈な暴風や高波となるおそれがあります。暴風や高波に厳重に警戒してください。風が強吹く前に、身の処方を注意する必要があります。沖縄地方に暴風特別警報が発せられる可能性があります。</p> <p>予想される最大風速（最大瞬間風速） 本島中部 南東の風 50メートル（70メートル） 本島北部 南東の風 50メートル（70メートル） 大東島 南東の風 50メートル（75メートル） 宮古島地方 北の西北西の風 55メートル（75メートル）</p> <p>＜高潮＞ 本島中部や本島北部、宮古島地方では、台風が接近に伴い、8日半期から潮位がかなり高くなる見込みです。海岸や河口付近の低地では高潮による浸水や冠水に厳重に警戒してください。</p> <p>予想される潮位と暴風高（暴風） 本島中部 8日半期から明け方 1. 3メートル 本島北部 8日半期から明け方 1. 3メートル 宮古島地方 8日半期から明け方 1. 3メートル</p> <p>今後、地元気象台が発する警報や注意報、気象情報に留意してください。次の高潮警報は、7日13時30分頃に予定。</p> </div> </div> <div data-bbox="716 702 1142 813" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【発表のタイミング】 1日1〜8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本への影響に応じて、発表の頻度を増やす ・天気予報の発表時刻である5,11,17時の発表が多い（情報発表時に次回発表の時刻を予告） <p>【内容】 台風の現況 予想される進路、暴風警戒域、中心気圧・最大風速・最大瞬間風速、雨・風・波浪・高潮等の現況と今後の予想、防災上の注意事項等</p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">（出典：気象庁提供資料より港湾局作成）</p> </div>	<div data-bbox="1209 215 2016 1396" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <h3 style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px;">全般気象解説情報(台風第10号) 第16号</h3> <p style="text-align: center;">2024年08月28日23時19分 気象庁発表</p> <p>鹿児島県に暴風、波浪、高潮特別警報を発表中です。鹿児島県では暴風や高波、高潮に、九州南部では土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に最大級の警戒をしてください。また、西日本と奄美地方では、29日にかけて継続降水帯が発生して大雨災害発生危険度が急激に高まる可能性があります。</p> <p>【気象概況】 非常に強い台風第10号は、28日22時には屋久島の北西約50キロにあって、1時間におよそ10キロの速さで北へ進んでいます。中心の気圧は935ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は50メートル、最大瞬間風速は70メートルで、中心から半径110キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。 台風は、今後、非常に強い勢力を維持したまま北上し、30日にかけて九州に上陸するおそれがあります。九州南部では記録的な暴風や高波、高潮、大雨となるおそれがあります。台風の動きが遅いため、西日本を中心に長い時間にわたって、猛烈な風や猛烈な雨が続き、総雨量が多くなる見込みです。 また、西日本と東日本太平洋側を中心に、台風本体から離れた地域でも、台風周辺や太平洋高気圧の縁を暖かく温った空気が流れ込んで大気の状態が非常に不安定になっており、断続的に雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降っている所があります。</p> <p>【風の予想】 奄美地方は29日は、西日本では30日にかけて、猛烈な風が吹く所がある見込みです。 29日に予想される最大風速（最大瞬間風速）は、 中国地方 18メートル（30メートル） 四国地方 25メートル（35メートル） 九州北部地方 40メートル（55メートル） 九州南部 50メートル（70メートル） 奄美地方 30メートル（45メートル） 30日に予想される最大風速（最大瞬間風速）は、 東海地方 22メートル（35メートル） 中国地方 25メートル（35メートル） 中国地方 25メートル（35メートル） 四国地方 30メートル（45メートル） 九州北部地方 40メートル（55メートル） 九州南部 35メートル（50メートル） その後も、西日本から東日本では非常に強い風が吹くおそれがあります。</p> <p>【波の予想】 西日本では、30日にかけてうねりを伴って大しげとなり、29日は九州南部・奄美地方で、猛烈にしける所があるでしょう。 29日に予想される波の高さは、 近畿地方 6メートル うねりを伴う 四国地方 7メートル うねりを伴う 九州北部地方 7メートル うねりを伴う 九州南部 10メートル うねりを伴う 奄美地方 9メートル うねりを伴う 30日に予想される波の高さは、 東海地方 6メートル うねりを伴う 近畿地方 7メートル うねりを伴う 四国地方 7メートル うねりを伴う 九州北部地方 7メートル うねりを伴う 九州南部 6メートル うねりを伴う 奄美地方 5メートル うねりを伴う その後も、西日本から東日本では大しげとなるおそれがあります。</p> <p>【雨の予想】 西日本と東日本太平洋側を中心に、30日にかけて、雷を伴った非常に激しい雨や猛烈な雨が降り、大雨となる所がある見込みです。その後も大雨が続き、九州南部を中心に総雨量が1000ミリを超える記録的な大雨となるおそれがあります。 29日00時から30日00時までに予想される24時間降水量は多い所で、 東海地方 300ミリ 近畿地方 200ミリ 中国地方 100ミリ 四国地方 400ミリ 九州北部地方 500ミリ 九州南部 600ミリ 奄美地方 150ミリ その後、30日00時から31日00時までに予想される24時間降水量は多い所で、 東海地方 300ミリ 近畿地方 200ミリ 中国地方 200ミリ 四国地方 400ミリ 九州北部地方 400ミリ 九州南部 400ミリ その後、31日00時から9月1日00時までに予想される24時間降水量は多い所で、 東海地方 300ミリ 近畿地方 300ミリ 中国地方 150ミリ 四国地方 200ミリ 九州北部地方 100ミリ 継続降水帯が発生した場合は、局地的にさらに雨量が増えるおそれがあります。</p> <p>【防災事項】 鹿児島県では暴風や高波、高潮に、九州南部では土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に最大級の警戒をしてください。地元市町村が発令する避難情報に従って早め早めに身の安全を確保してください。 西日本では、一部の住家が倒壊するおそれもある猛烈な風が吹く所がある見込みです。風が強まる前に頑丈な建物の中に移動するとともに、屋内では窓から離れるなど暴風に厳重に警戒してください。また、高波に厳重に警戒し、高潮や高潮と重なった波浪による浸水などにも厳重に警戒してください。 また、西日本と東日本太平洋側を中心に、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒し、落石や竜巻などの激しい突風にも注意してください。発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には、建物内に移動するなど安全確保に努めてください。</p> <p>【補足事項】 地元気象台が発する防災気象情報に留意してください。次の「全般気象解説情報(台風第10号)」は、29日5時頃に発表する予定です。</p> </div>
	<p>図 1.3.2 気象庁等が発表する台風に関する情報</p> <p>② 気象庁本庁が発表する「台風に関する気象情報」 気象庁では、ラジオやテレビを通して言葉で伝えたり、新聞記事として掲載したりするために、図による情報よりも詳細な内容である「台風に関する気象情報」を発表している。 日本列島に大きな影響を及ぼす台風が接近している時には、24時間先までの3時間刻みの予報なども記述する詳細な情報も発表している。</p> <p>③ 各地の気象台や測候所が発表する「台風に関する気象情報」 各地の気象台や測候所は、気象庁本庁が発表した情報をもとに担当する地域の特性や影響などを加味して「台風に関する気象情報」を発表する。</p>	<p>図 1.3.2 気象庁等が発表する台風に関する情報</p>

現行の頁

現行（平成31年3月）

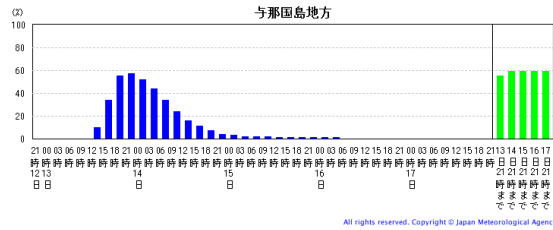
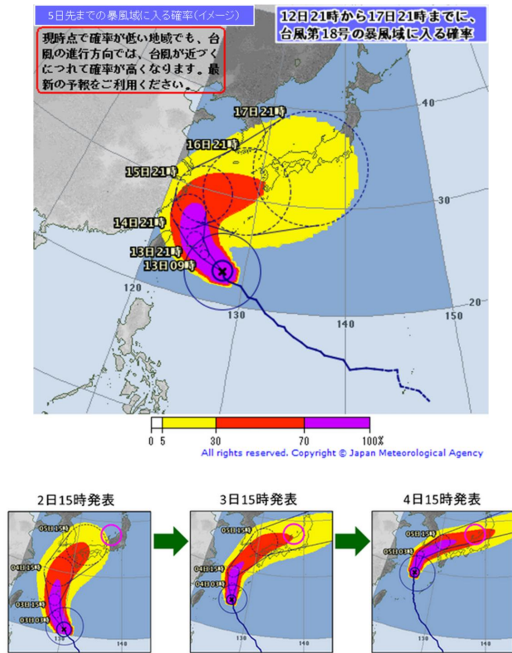


図 1.3.3 台風の暴風域に入る確率（与那国島地方の例）



（出典：気象庁提供資料）

図 1.3.4 台風の暴風域に入る確率（分布図）

④ 地域ごとの時間変化

気象庁は、市町村等をまとめた地域ごとに「暴風域に入る確率」を発表する。120 時間以内に台風の暴風域に入る確率が 0.5%以上である地域に対し、上図左のように 120 時間先までの 3 時間ごとの値を示す。

一部改訂（令和8年〇月）

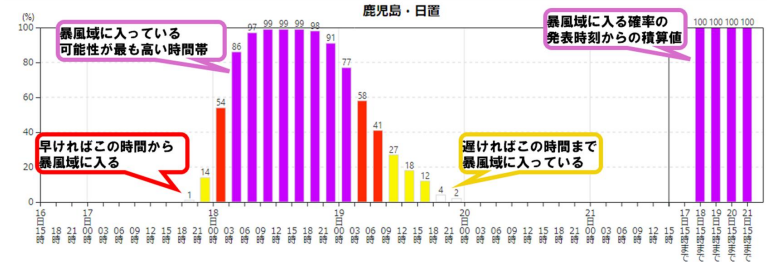
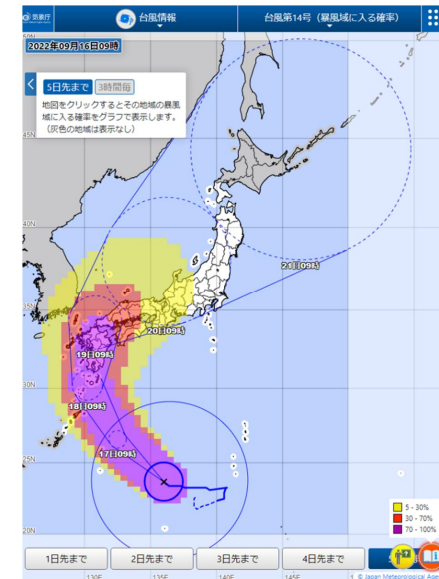


図 1.3.3 台風の暴風域に入る確率（鹿児島県日置市の例）

（出典：気象庁提供資料）



（出典：気象庁提供資料）

図 1.3.4 台風の暴風域に入る確率（分布図）

② 地域ごとの時間変化

気象庁は、市町村等をまとめた地域ごとに「暴風域に入る確率」を発表する。120 時間以内に台風の暴風域に入る確率が 0.5%以上である地域に対し、上図左のように 120 時間先までの 3 時間ごとの値を示す。

現行の頁	現行（平成31年3月）	一部改訂（令和8年〇月）																																																																																																										
	<p>早ければ確率の値が増加しはじめる時間帯から（図 1.3.3 では 13 日 12 時から）、暴風域に入る可能性があり、値がピークの時間帯（図 1.3.3 では 13 日 21 時～14 日 0 時）は、最も暴風域に入っている可能性が高い時間帯である。また、値が小さくなった時間帯（図 1.3.3 では 16 日 6 時まで）でも、まだ暴風域に入っている可能性があることに注意が必要である。</p> <p>暴風域に入る確率は、台風の子報円の大きさを考慮して計算されている。一般的に、情報の発表時刻から先の時間になるほど予報円が大きくなり、広い地域に低く確率が予報される。このため台風が離れているときに確率が低い地域でも、台風が接近することで確率が高くなることがある。</p> <p>暴風の影響を受けたときの危険は大きいと、発表されている確率が低くても、確率の変化傾向やピークの時間帯に注目し、常に最新の予報を利用する必要がある。</p> <p>⑤ 分布表示</p> <p>また、地域ごとの確率に加えて、図 1.3.4 のような確率の分布図も発表している。</p> <p>台風の進行方向では、台風が近づくにつれて確率が高くなっていくので注意が必要である。確率が低くても、その後発表される予報でどう変わるかに気をつけて確認する必要がある。例えば図 1.3.4 の下図のように、台風の進行方向にあたる北陸地方（円内）では、一番左の図の予報では確率が低かったが、1 日後の予報（中央の図）、2 日後の予報（右の図）では、確率が高くなっている。その後、この台風は北陸地方に向かって進んでいる。</p>	<p>早ければ確率の値が増加しはじめる時間帯から（図 1.3.3 では 17 日 18 時から）、暴風域に入る可能性があり、値がピークの時間帯（図 1.3.3 では 18 日 9～18 時）は、最も暴風域に入っている可能性が高い時間帯である。また、値が小さくなった時間帯（図 1.3.3 では 19 日 0 時まで）でも、まだ暴風域に入っている可能性があることに注意が必要である。</p> <p>暴風域に入る確率は、台風の子報円の大きさを考慮して計算されている。一般的に、情報の発表時刻から先の時間になるほど予報円が大きくなり、広い地域に低く確率が予報される。このため台風が離れているときに確率が低い地域でも、台風が接近することで確率が高くなることがある。</p> <p>暴風の影響を受けたときの危険は大きいと、発表されている確率が低くても、確率の変化傾向やピークの時間帯に注目し、常に最新の予報を利用する必要がある。</p> <p>③ 分布表示</p> <p>また、地域ごとの確率に加えて、図 1.3.4 のような確率の分布図も発表している。</p> <p>台風の進行方向では、台風が近づくにつれて確率が高くなっていくので注意が必要である。確率が低くても、その後発表される予報でどう変わるかに気をつけて確認する必要がある。</p>																																																																																																										
<p>参考資料</p> <p>1. 4</p>	<p>1. 4 気象庁の発する防災情報等に関する解説</p> <p>① 「警報級の可能性」について</p> <div data-bbox="472 906 1055 962" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○気象庁は、警報級の現象が6日先までに予想されているときには、その可能性を「警報級の可能性」として[高]と[中]の2段階の確度を付して発表。 ○雨、雪、風、波を対象に発表。</p> </div> <div data-bbox="629 970 887 994" style="background-color: #0070C0; color: white; text-align: center; padding: 2px;"> <p>5日先までの「警報級の可能性」</p> </div> <p>○〇県南部の警報級の可能性 南部では、4日までの期間内に、暴風、波浪警報を発表する可能性が高い。 また、4日明け方までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。</p> <div data-bbox="734 1058 1037 1098" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>今日～明日 ・天気予報と合わせて発表 ・時間帯を区切って表示</p> <p>明後日～5日先 ・週間天気予報と合わせて発表 ・日単位で発表</p> </div> <table border="1" data-bbox="479 1106 1030 1233"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="8">警報級の可能性</th> </tr> <tr> <th colspan="2">3日</th> <th colspan="2">4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> <th>7日</th> <th>8日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大雨</td> <td colspan="2">明け方まで 18-6</td> <td colspan="2">朝～夜遅く 6-24</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>[中]</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>暴風</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>[高]</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>[中]</td> <td>[高]</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>波浪</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>[高]</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>[中]</td> <td>[高]</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="488 1233 1025 1289" style="font-size: small;"> <p>[高]:警報を発表中、又は、警報を発表するよう現象発生可能性が高い状況です。明日までの警報級の可能性が[高]とされているときは、危険度が高まる詳細な時間帯を本ページ上段の気象警報 注意報で確認してください。 [中]:[高]ほど可能性は高くありませんが、前に危険を及ぼすような警報級の現象とみられることを表しています。明日までの警報級の可能性が[中]とされているときは、深夜などの警報発表も想定して心構えを高めてください。</p> </div> <div data-bbox="562 1305 1048 1385" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今日～明日 前日の夕方以降で、必ずしも可能性は高くないものの、夜間～翌日早期までの間に警報級の大雨となる可能性もあることが分かる！</p> <p>明後日～5日先 数日先の荒天について可能性を把握することができる！</p> </div>	種別	警報級の可能性								3日		4日		5日	6日	7日	8日	大雨	明け方まで 18-6		朝～夜遅く 6-24		-	-	[中]	-	暴風	-	-	[高]	-	-	[中]	[高]	-	波浪	-	-	[高]	-	-	[中]	[高]	-	<p>1. 4 気象庁の発する防災情報等に関する解説</p> <p>① 「早期注意情報（警報級の可能性）」について</p> <div data-bbox="1496 943 1715 1038" style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>翌日まで ・天気予報と合わせて発表 ・時間帯を区切って表示 ・一次細分区域ごとに発表</p> </div> <div data-bbox="1765 943 2022 1038" style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>3日先～5日先まで ・週間天気予報と合わせて発表 ・日単位で表示 ・府県予報区ごとに発表</p> </div> <table border="1" data-bbox="1218 1082 2000 1262"> <thead> <tr> <th rowspan="2">警報級の可能性</th> <th>1日</th> <th colspan="3">2日</th> <th>3日</th> <th>4日</th> <th>5日</th> <th>6日</th> </tr> <tr> <th>18-24</th> <th>00-06</th> <th>06-12</th> <th>12-18</th> <th>18-24</th> <th>00-12</th> <th>12-24</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大雨</td> <td>-</td> <td>[中]</td> <td>[高]</td> <td>[中]</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>土砂災害</td> <td>-</td> <td>[中]</td> <td>[高]</td> <td>[高]</td> <td>[中]</td> <td>[中]</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>暴風</td> <td>-</td> <td>[中]</td> <td>[高]</td> <td>[高]</td> <td>[中]</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>波浪</td> <td>-</td> <td>[中]</td> <td>[高]</td> <td>[高]</td> <td>[中]</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>高潮</td> <td>-</td> <td>[中]</td> <td>[高]</td> <td>[高]</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; color: red;">(出典) 気象庁資料より港湾局作成</p>	警報級の可能性	1日	2日			3日	4日	5日	6日	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24		大雨	-	[中]	[高]	[中]	-	-	-	-	土砂災害	-	[中]	[高]	[高]	[中]	[中]	-	-	暴風	-	[中]	[高]	[高]	[中]	-	-	-	波浪	-	[中]	[高]	[高]	[中]	-	-	-	高潮	-	[中]	[高]	[高]	-	-	-	-
種別	警報級の可能性																																																																																																											
	3日		4日		5日	6日	7日	8日																																																																																																				
大雨	明け方まで 18-6		朝～夜遅く 6-24		-	-	[中]	-																																																																																																				
暴風	-	-	[高]	-	-	[中]	[高]	-																																																																																																				
波浪	-	-	[高]	-	-	[中]	[高]	-																																																																																																				
警報級の可能性	1日	2日			3日	4日	5日	6日																																																																																																				
	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24																																																																																																					
大雨	-	[中]	[高]	[中]	-	-	-	-																																																																																																				
土砂災害	-	[中]	[高]	[高]	[中]	[中]	-	-																																																																																																				
暴風	-	[中]	[高]	[高]	[中]	-	-	-																																																																																																				
波浪	-	[中]	[高]	[高]	[中]	-	-	-																																																																																																				
高潮	-	[中]	[高]	[高]	-	-	-	-																																																																																																				

② 「警報級の可能性」の利活用イメージ

「警報級の可能性」の[高]及び[中]の利活用のイメージ

警報級の可能性	翌日まで	2日先から5日先まで
	積乱雲や線状降水帯などの小規模な現象に伴う大雨等から、台風・低気圧・前線などの大規模な現象に伴う大雨等までが対象。	台風・低気圧・前線などの大規模な現象に伴う大雨等が主な対象。
発表時刻・発表単位	天気予報に合わせて発表 毎日05時・11時・17時に、一次細分区域ごとに発表	週間天気予報に合わせて発表 毎日11時・17時に、府県予報区ごとに発表
[高]	翌日までの期間に「警報級の可能性」の[高]が発表されたときは、危険度が高まりつつあり、「警報に切り替える可能性が高い注意報」や「予告的な府県気象情報」等がすでに発表されているか、まもなく発表されることを表しています。命に危険が及ぶような警報級の現象が予想される詳細な時間帯を気象警報・注意報等で確認してください。	数日先の「警報級の可能性」の[高]や[中]が発表されたときは、心構えを早めに高めて、これから発表される「台風情報」や「予告的な府県気象情報」の内容に十分留意するようにしてください。
[中]	翌日までの期間に「警報級の可能性」の[中]が発表されたときは、これをもって直ちに避難等の対応をとる必要はありませんが、深夜などの警報発表も想定して心構えを一段高めておくようにしてください。	

「明日まで」の方が「明後日から5日先まで」よりも見逃しが少ない。

(内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」②P48の内容に基づき整理)

(出典) 気象庁HPより港湾局作成

③ 「府県気象情報」について

【気象情報の種類】

- 気象庁では、気象情報を発表する地域によって以下の3種類に分類。
 - ・全国を対象とする「全般気象情報」
 - ・全国を11に分けた地方予報区を対象とする「地方気象情報」
 - ・都道府県を対象とする「府県気象情報」(※北海道や沖縄県ではさらに細かい単位)

【気象情報の役割】

- 警報や注意報に先立って注意を呼びかけたり、警報や注意報の内容を補完するために発表。
- 24時間から2～3日先に災害に結びつくような激しい現象が発生する可能性のあるときに発表。

(例:全般気象情報)

平成26年 台風第8号に関する情報 第20号
平成26年7月7日10時45分 気象庁予報部発表

(見出し)
大型で非常に強い台風第8号は、8日は猛烈な勢力となって沖縄地方にかなり接近する見込みです。沖縄地方では記録的な暴風や高潮となるおそれがあり、特別警報を発表する可能性があります。暴風や高波、高潮、大雨に厳重に警戒してください。

(本文)
【台風の状況】
大型で非常に強い台風第8号は、7日9時には沖縄の南にあって、1時間におよそ20キロの速さで北西へ進んでいます。中心の気圧は930ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は50メートル、最大瞬間風速は70メートルで中心から半径200キロ以内では風速25メートル以上の暴風となっています。

<高潮>
沖縄地方では、台風の接近に伴い8日は潮位がかなり高くなる見込みで、高潮特別警報が発表される可能性があります。海岸や河口付近の低地では高潮による浸水や冠水に厳重に警戒してください。

(例:沖縄地方気象情報)

平成26年7月7日11時01分 沖縄気象台発表

(見出し)
大型で非常に強い台風第8号は、8日は猛烈な勢力となって沖縄地方に接近する見込みです。沖縄地方では記録的な暴風や高波となるおそれがあり、特別警報を発表する可能性があります。暴風や高波、高潮、大雨に厳重に警戒してください。

<高潮>
本島中南部や本島北部、宮古島地方では、台風の接近に伴い、8日未明から明け方は潮位が高くなる見込みです。海岸や河口付近の低地では高潮による浸水や冠水に注意してください。なお、8日未明からさらに高くなる見込みで、高潮特別警報が発表される可能性があります。海岸や河口付近の低地では高潮による浸水や冠水に厳重に警戒してください。

予想される期間と最高潮位(概算)
本島中南部 8日未明から明け方 1. 3メートル
本島北部 8日未明から明け方 1. 3メートル
宮古島地方 8日未明から明け方 1. 3メートル

今後、地元気象台が発表する警報や注意報、気象情報に留意してください。次の情報は、7日13時30分頃の予定です。

※実際に発表された電文から作成(提供:気象庁)

② 「早期注意情報(警報級の可能性)」の利活用イメージ

	翌々日まで	3日先から5日先まで
発表時刻・発表単位	天気予報に合わせて発表 毎日05時・11時・17時に、一次細分区域ごとに発表	週間天気予報に合わせて発表 毎日11時・17時に、府県予報区ごとに発表
[高]	翌日までの期間に早期注意情報(警報級の可能性)の[高]が発表されたときは、今後において警報級の現象の可能性が高いことを表しています。命に危険が及ぶような警報級の現象が予想される詳細な時間帯を、気象状況の見通しを示す「時系列情報」等で確認してください。	数日先の早期注意情報(警報級の可能性)の[高]や[中]が発表されたときは、心構えを早めに高めて、これから発表される「台風情報」や「予告的な府県気象解説情報」の内容に十分留意するようにしてください。
[中]	翌日までの期間に早期注意情報(警報級の可能性)の[中]が発表されたときは、これをもって直ちに避難等の対応をとる必要はありませんが、深夜などの警報発表も想定して心構えを一段高めておくようにしてください。	

「翌々日まで」の方が「3日先から5日先まで」よりも見逃しが少ない。

「高」の方が「中」よりも見逃しが少ない

③ 「気象防災速報」「気象解説情報」について

【気象防災速報】

気象庁は、気象警報・注意報を補足する情報として、極端な現象が発生又は発生しつつある場合にその旨を「気象防災速報」として速報的に伝える。

例えば、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じような場所で降り続けている場合には「気象防災速報(線状降水帯発生)」を発表し、3時間以内に線状降水帯の発生が予測された場合には、気象防災速報(線状降水帯直前予測)」を発表する。

また、大雨に関する警報等が発表中で、かつキキクルの「危険」(紫)以上が出現している場合に、数年に一度程度しか発生しないような記録的な短時間の大雨を観測もしくは解析し、より一層の警戒を呼びかけるときには、「気象防災速報(記録的短時間大雨)」を発表する。他にも、竜巻等の激しい突風が発生する可能性が高まっている場合は「気象防災速報(竜巻注意)」や「気象防災速報(竜巻目撃)」を発表する。

【気象解説情報】

気象庁は、台風や低気圧に伴って大雨や暴風等が予想される場合、特別警報・危険警報・警報・注意報の発表に先立って、1日～数日程度前から注意・警戒を呼びかけたり、警報・注意報の発表中も、現象の経過や予想、防災上の留意点などを網羅的に解説するため、気象警報・注意報を補足する情報として「気象解説情報」を随時発表する。

また、線状降水帯による大雨の可能性が高いと予想された場合には、半日程度前から、気象解説情報(線状降水帯半日予測)」という形で呼びかける。

④ 「危険度を色分けした時系列」について

気象警報・注意報の新たな表示(危険度を色分けした時系列)

平成28年 8月30日6時19分 盛岡地方気象台発表

吾手原の注意警報事項
沿岸部、沿岸部では、30日朝から31日明け方まで土砂災害に、30日昼前から30日夜の明け方まで暴風、31日明け方まで暴風警報に警戒してください。

※ 暴風警報
【暴風】 大雨(暴風)時、暴風警報
【暴風】 暴風警報、雷、洪水、高潮、濃霧注意報
30日昼過ぎまでに洪水警報に切り替える可能性が高い
30日昼過ぎまでに高潮警報に切り替える可能性が高い

岩手県	発表中の警報	今後の推移(警報級/注意報級)										備考・関連する現象			
		30日 3-6	30日 6-9	30日 9-12	30日 12-15	30日 15-18	30日 18-21	30日 21-24	30日 24-27	30日 27-30	31日 3-6				
大雨	1時間最大雨量(ミリ)	16	30	40	50	80	80								浸水注意
	(土砂災害)														土砂災害警戒
暴風	風速(メートル/秒)														
	浪上														以後も注意報級
高潮	高潮(メートル)	0.4	-0.2	0.1	1.2	1.2	1.2	0.7	0.7						ピークは30日24時頃
	浪上														電報、ひょう
濃霧	濃霧(メートル)														視程100メートル以下 以後も注意報級
	浪上														視程500メートル以下 以後も注意報級

【従来の表示との変更点】
○警報級、注意報級の減少が予想される時間帯をそれぞれ赤、黄色で表示するなど、危険度とその切迫度が一目で分かる色分け表示を実施。
○雨量、風速、潮位などの予測値も時間帯ごとに明示。
○警報に切り替える可能性が高い注意報についても、通常の注意報と視覚的に区別できる表示に変更。

【発表・更新の時期】
○これまで同様、発表基準(風速や潮位など)に到達する現象が予測される時に発表。(警報級の現象の場合、3~6時間前)
○気象警報・注意報の発表時に更新。

ピーク時間帯と予測潮位がわかるため、これをもとに、防災行動開始時期の判断を行う。

※ 従来の文章形式による表示も継続。

(出典) 気象庁HPより港湾局作成

⑤ 高潮警報基準について

- 高潮警報は避難勧告の発令基準の一つとして位置づけられている。(「避難勧告等に関するガイドライン」、平成31年3月 内閣府)
- 高潮警報の基準は、市町村の危険潮位(その潮位を超えると、海岸堤防等を越えて浸水のおそれがあるものとして、避難勧告等の対象区域毎に設定する潮位)や海岸堤防の天端高等を参考に、避難勧告の基準と一体的に自治体と気象台が協議を行って設定している。

※ 船舶の退避や作業員の避難等について

実際に高潮を発生させるような台風等の接近時には、潮位上昇よりも先に暴風が吹き始めて屋外の移動は命の危険を伴う状況となる。このため、高潮警報を待つことなく、高潮注意報等で明示される予測最高潮位や、強風注意報・暴風警報等の情報を活用し、暴風が吹き始める前に防災行動を完了する必要がある。

※ 参考：三大湾における高潮警報基準

- 東京湾(東京都) 4.0m
(ただし、品川区・港区は2.4m、大田区は3.0m、江戸川区は3.1m)
- 伊勢湾(愛知県) 1.8~3.3m
- 大阪湾(大阪府) 2.2m

④ 「時系列情報(明日までの警報級の見通し)」について

- 令和8年度の新たな防災気象情報の運用開始に合わせ、新たに「時系列情報(明日までの警報等の見通し)」を提供します。
- 時系列情報は、警報・注意報に先立って気象の見通しを二次細分区単位(+山地等の分割地域)で提供する予測情報です。
 - 警報・注意報の発表に関わらず、時系列情報の対象とする全要素※について、翌日までの3時間毎または日毎の気象状況の見通しを、毎日4回(05時、11時、17時、23時)提供
 - ※対象要素：大雨、土砂災害、風、波、高潮、雷、乾燥、大雪、融雪、濃霧、着氷、着雪、なだれ、低温、霜(下線部の要素は日毎の見通しを提示)
 - 気象庁ホームページでは常時表示、定期的に更新(上記の4回)
 - 定期的な更新以外にも、当初の想定から今後の見通しが大きく変わった場合などには、必要に応じて臨時に修正情報を発表(気象庁ホームページの時系列情報も更新)

時系列情報のイメージ(実際の表示は異なることがある)



(出典) 気象庁HPより港湾局作成

⑤ レベル5高潮特別警報・レベル4高潮危険警報の基準について

- レベル5高潮特別警報・レベル4高潮危険警報は避難情報の発令基準の一つとして位置づけられている。(「避難情報に関するガイドライン」、令和8年3月 内閣府)
- レベル5高潮特別警報・レベル4高潮危険警報の基準は、市町村の危険潮位(その潮位を超えると、海岸堤防等を越えて浸水のおそれがあるものとして、避難情報等の対象区域毎に設定する潮位)や海岸堤防の天端高等を参考に、避難情報の基準と一体的に自治体と気象台が協議を行って設定している。

※ 船舶の退避や作業員の避難等について

実際に高潮を発生させるような台風等の接近時には、潮位上昇よりも先に暴風が吹き始めて屋外の移動は命の危険を伴う状況となる。このため、レベル3高潮警報を待つことなく、レベル2高潮注意報等で明示される予測最高潮位や、強風注意報・暴風警報等の情報を活用し、暴風が吹き始める前に防災行動を完了する必要がある。

※ 参考：三大湾における高潮警報基準(令和8年出水期より変更の予定)

- 東京湾(東京都) 4.0m
(ただし、品川区・港区は2.4m、大田区は3.0m、江戸川区は3.1m)
- 伊勢湾(愛知県) 1.8~3.3m
- 大阪湾(大阪府) 2.2m

現行の頁	現行（平成31年3月）	一部改訂（令和8年〇月）
		<p>⑥ 「高潮予報海岸」について</p> <p>国土交通大臣が「高潮により国民経済上重大な損害が生じるおそれのある海岸」として指定した海岸（以下「高潮予報海岸」という。）では、国土交通省（地方整備局等）・気象庁（地方气象台等）・都道府県から高潮予報が発表される。（高潮予報海岸以外（以下「その他海岸」という。）では、地方气象台等から発表される。）高潮予報海岸では、気象庁がその他海岸で運用する潮位予測に加えて、海岸の地形や施設形状に影響される「波の打上げ高」の要素を加味した水位の予測に基づく運用も行われる。</p> <div data-bbox="1218 456 2011 1054"> <h3>高潮予報の発表基準について</h3> <p>国土交通省</p> <p>○高潮による浸水被害が発生する前に適切な防災行動がとられるよう、水位又は潮位が浸水被害のおそれのある状況となる高さに達すると予想される約18時間前までにレベル2高潮注意報、約12時間前までにレベル3高潮警報、約6時間前までにレベル4高潮危険警報を発表^{※1}。</p> <p>○高潮による浸水被害が発生又は切迫している状況となった場合は、レベル5高潮特別警報を発表。</p> <p>水位（潮位+波の打上げ高）に関する基準 ……高潮予報海岸のみで設定・運用</p> <p>気圧の低下による「低い上げ」や「吹き寄せ」、海岸の地形等の影響を考慮した「波の打上げ」の要素を加味した水位の上昇の予測情報を元に、国土交通省、気象庁、都道府県が共同で予報を実施</p> <p>発表基準の高さ：水位がその高さを超えると浸水被害が発生する高さ（レベル2～5）（堤防天端高等）で設定</p> <p>※1 水位警報は、警報地をも設定し、その場所における水位予測をもとに運用する。潮位が高いが浸水が低い場合や、警報地以外の場所でも高潮による浸水被害発生のおそれがある場合も考慮し、潮位警報を用いた運用と組み合わせて情報発表する。</p> <p>リアルタイムに波の打上げの要素を加味した予測を実施</p> <p>地形情報 海岸保全施設</p> <p>潮位に関する基準 ……高潮予報海岸を含むすべての海岸で設定・運用</p> <p>気圧の低下による「低い上げ」や「吹き寄せ」による潮位の上昇の予測情報を元に、気象庁が予報を実施</p> <p>発表基準の高さ：潮位がその高さを超えると浸水被害が発生する高さ（堤防天端高等^{※2}）で設定</p> <p>発表基準の高さ：潮位がその高さを超えると浸水被害が発生するおそれのある高さ（設計高潮位や居住地域の地盤高等）^{※2}で設定</p> <p>※2 レベル4高潮危険警報は、避難指示の発令判断に用いられるため、高潮による浸水被害につなぐ高さ基準として設定。また、レベル5高潮特別警報は、水平距離から浸水距離へ行政機関が求める緊急事態宣言時の発令判断に用いられるため、浸水被害が発生する確率が著しく高くなる高さ基準として設定。</p> <p>※3 海岸保全施設がある場合は、設計高潮位や既往災害時の潮位等で設定。海岸保全施設がない場合や、堤防天端高が居住地域の地盤高より低い場合は、居住地域の地盤高で設定。</p> </div>